

2010年度 臨床共通科目

教育課程の編成及び実施に関する科目

探究課題： 話し合い学習の評価

発話プロトコルの分析 ～形式・機能・意味内容の三層～

1 班 阿部裕子 相澤文哉 飯塚教裕 遠藤貴裕
小坂良範 高橋端人 花溪章子 渡辺勝行

本日のテーマ

話し合い学習の評価

授業者として、話し合い学習をどのように見取り、評価していくのか。

発話プロトコルを形式的な特徴・発話機能・意味的な内容
の三つの層で分析します。

共に学びましょう。

中学一年 国語科より

庭の一部 北原白秋

さあ、朝飯だ。

深紅な、ちらちらする、

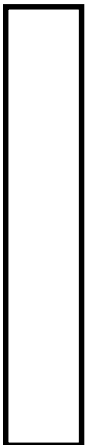
コスモスの花が三つと、

穂の出たばかりの小さい唐黍、

なんと、この庭の一部の

幽かな、新鮮な秋。

あ、



*空欄に入る適切なことばを考えよう。

なぜそう考えたか、理由も説明しよう。
理由を説明する際には、本文を引用しながら説明すること。

本日のテーマ

話し合い学習の評価

授業者として、話し合い学習をどのように見取り、評価していくのか。

発話プロトコルを形式的な特徴・発話機能・意味的な内容
の三つの層で分析します。

共に学びましょう。

話し合い学習を授業に取り入れる。



少人数グループでの話し合い学習を授業に取り入れる。



子どもが互いに考えや思いを伝え合うことにより、自分の見方や考え方が広がり深まる。



少人数のため、発表者・聞き手としての意識が高まる。両者の立場で自分の考えや思いを言いやすい。

授業者として、話し合い学習をどのように見取り評価しますか？

- 話し合っている子どもの様子を観察する
(観察、机間支援)
- 各グループの発表を確認する。
(発表内容)
- 学習シート等を確認する。
(机間指導、授業後に回収)

授業者の評価の課題

- 話し合っている子どもの様子を観察する
(観察、机間支援)



- ・話し合いを活発にしている
→ 学びが成立している？
- ・話し合いを活発にしていない
→ 学びが成立していない？



課題：授業者のカンや経験に頼る主観的な見取りと評価

授業者のカンや経験に頼る主観的な見取りと評価

・評価者(分析者)として教師は、ねらいがこうなって欲しいという期待がある。教師の主観的な評価となりやすい。



課題

授業者の恣意的な解釈の克服
(思いつきや主観的な解釈)

恣意的な解釈での評価

- 国語科教育研究においても学習間の話し合いをトランスクリाइブし、そのプロトコルを分析して学習研究を行うことが広がっている。
- 国語科の授業をプロトコルから分析した例には状況の文脈を導入した恣意的な解釈が多い。

国語科教育研究における話し合いプロトコルの質的三層分析

松本 修

話し合い学習を評価する方法

- 恣意的評価でよいのか。評価において、方法的な手順・段階が必要となる。
- 話し合いを通して、子どもの中で理解が進んだのか。話し合いがどうであったのかを分析する。

恣意性を回避するための評価

- 質的研究の内部において恣意性を回避するために、**形式的特徴・発話機能・意味内容**の三層からアプローチする方法を具体的データの分析を通して提案する。

国語科教育研究における話し合いプロトコルの質的三層分析

松本 修

プロトコル

- 心理学の分野で、問題解決の過程を研究するために、実験参加者に考えていることを声に出して報告してもらおうという方法がしばしば用いられる。

このようにして得られた言語データのことをプロトコルという。

- 人間の思考の特性をとらえるための言語データ

長谷川寿一他著 はじめて出会う心理学
有斐閣アルマ

話し合い学習における発話プロトコル

60B:何か、普通やったら？／／新鮮な魚とか言わんやん。

61A:／／うん。

62A:うんおおう。

63B:新鮮な秋ってあんまり言わんがいんねえ。

64A:うん、言わん。

65?:うん。

66B:やろ？そやから、それは、たべものとみとる

67A:ああ。なるほど。

68?:たべもの。

69B:秋を。

70A:なるほど。

71B:みとるっというのを食べ物っていうこの表現っていうか。

／／なんていうかそんな感じで？で、自然を見て満足しとるのをおいしいっていうを。

72A:／／うん。

73A:ああ、あ:。

74CD:あ:。

発話プロトコルの記号

記号

- ／／ 発話の重なり。直後の／／の後の発話が重なっている。(同時発話)
- = 途切れのない発話のつながり。直後の＝の後の発話がつながっている。(連続発話)
- () 聞きとり不能。中に記述のある場合は、聞き取りが不完全で確定できない内容。
- (3) 3秒の沈黙。
- (.) 「、」で表記できないごく短い沈黙。
- :: 直前の音が伸びている。
- 直前の音が不完全なまま途切れている。
- 、 発話中の短い間。
- ? 語尾の上昇。
- 。 陳述の区切り。
- 下線部の音の強調。(音の大きさ)
- ° ° 間の音が小さい。
- (()) 注記。

発話プロトコル

～国語科 中学1年 女子4名グループ～

60B:何か、普通やったら？／／新鮮な魚とか言わんやん。

61A:／／うん。

62A:うんおおう。

63B:新鮮な秋ってあんまり言わんがいんねえ。

64A:うん、言わん。

65?:うん。

66B:やろ？そやから、それは、たべものとみとる

67A:ああ。なるほど。

68?:たべもの。

69B:秋を。

70A:なるほど。

71B:みとるっというのを食べ物っていうこの表現っていうか。

／／なんていうかそんな感じで？で、自然を見て満足しとるのをおいしいっていうを。

72A:／／うん。

73A:ああ、あ::。

74CD:あ::。

実際に聞いてみましょう。

話し合いプロトコルの質的三層分析

- 形式的な特徴
- 発話機能
- 意味的な内容

形式的な特徴(話し合い全体の特徴)

- 話し合い全体がどのように進んでいるかを分析する。
- 同時発話、連続発話などに着目して、話し合いの表層的な特徴を分析する。

発話機能(話し合い、学習を推進する機能)

- 話し合いを推進するメタレベルからのモニターに着目する。
- 発表者の発話に対して、理解を示し反応している発話に着目して分析する。
- 発話者の言葉のやり取りから、お互いの考えを理解されているか、確認がとれているかを分析する。

意味的な内容

(学習課題をもとに話し合っている内容)

- 話し合っている内容に着目する。
- 話し合いを通して、子ども同士が自分の考えや気づきを広げ深めているかどうかを分析する。
- 発表者の発話に対して、自分の見解を示している発話に着目して分析する。

- ・学習シートに書いていないことを発表している点にも着目する。

学習シート

庭の一部 北原白秋

さあ、朝飯だ。
真紅な、ちらちらする、
コスモスの花が三つと、
穂の出たばかりの小さい唐黍、
なんと、この庭の一部の
幽かな、新鮮な秋。
あ、

* 空欄に入る適切なことはを考えよう。なぜそう考えたか、理由も説明しよう。理由を説明する際には、本文を引用しながら説明すること。

ことは おいしい

理由 新鮮な秋を食べて、とてもおいしかったと思ったから。

* 交流しよう

西口 さん	森本 さん	松本 さん
ことは 落ち葉も落ちていて 理由 新鮮な秋で落ち葉が思い浮かんだ。	ことは 理由	ことは 庭が笑っている 理由 庭に秋が来るの待っている。
私の疑問・意見	私の疑問・意見	私の疑問・意見

私の疑問・意見

この落ち葉をいけると最初の朝飯だの所かどのような役割なのか。

* 誰の答えが一番いいと思ったか。それはなぜか。

また思っけた。

理由: 新鮮な秋を見つづけたという喜びのようなものがあうと思っただのいいと思った。

形式的な特徴・発話機能・意味的な内容で分析します

～国語科 中学1年 女子4名グループ～

60B:何か、普通やったら？／／新鮮な魚とか言わんやん。

61A:／／うん。

62A:うんおおう。

63B:新鮮な秋ってあんまり言わんがいんねえ。

64A:うん、言わん。

65?:うん。

66B:やろ？そやから、それは、たべものとみとる

67A:ああ。なるほど。

68?:たべもの。

69B:秋を。

70A:なるほど。

71B:みとるっというのを食べ物っていうこの表現っていうか。

／／なんていうかそんな感じで？で、自然を見て満足しとるのをおいしいっていうを。

72A:／／うん。

73A:ああ、あ:。

74CD:あ:。

形式的な特徴の分析

ここでは、司会者であったBが発表者として発言している。形式的特徴としては発言の“間”がなく、Bの発言に対し、あいづち(61Aや70A)が多くみられる。これよりBの発話が確認され、自然に進んでいることがうかがわれる。

60B:何か、普通やったら?／／新鮮な魚とか言わんやん。

61A:／／うん。

62A:うんおおう。

63B:新鮮な秋ってあんまり言わんがいんねえ。

64A:うん、言わん。

65?:うん。

66B:やろ?そやから、それは、たべものとみとる

67A:ああ。なるほど。

68?:たべもの。

69B:秋を。

70A:なるほど。

71B:みとるっというのを食べ物っていうこの表現っていうか。

／／なんていうかそんな感じで?で、自然を見て満足しとるのをおいしいっていうを。

72A:／／うん。

73A:ああ、あ:。

74CD:あ:。

2010/7/28

発話機能の分析

ここでは、Bは自分の考えが聞き手に受け入れられていることを確認している。Bの発言において語尾が「やん」「ねえ」など、これはBが反応を促す機能を担っている。(参照60B、61A、62A。63B、64A その他)さらに61Aで「聞いてるよ。」という同調の姿勢が表れ、70A、72A、73Aの発言からBに対し、同意の姿勢がみられる。

60B:何か、普通やったら？／／新鮮な魚とか言わんやん。

61A:／／うん。

62A:うんおおう。

63B:新鮮な秋ってあんまり言わんがいんねえ。

64A:うん、言わん。

65?:うん。

66B:やろ？そやから、それは、たべものとみとる

67A:ああ。なるほど。

68?:たべもの。

69B:秋を。

70A:なるほど。

71B:みとるっというのを食べ物っていうこの表現っていうか。

／／なんていうかそんな感じで？で、自然を見て満足しとるのをおいしいっていうを。

72A:／／うん。

73A:ああ、あ:。

74CD:あ:。

2010/7/28

意味的な内容の分析

ここの部分での会話のやり取りから意味的な内容を分析してみる。63Bから69Bまでの間ではBは「秋」を「たべもの」と見てとり、発言している。この発言にはAは理解を示し、反応しているがCDに関してはここでBの発言している「秋」を「たべもの」と見取ることに理解を示していない。そして、68?では“たべもの”と再度発言に関する確認が行われている。そういった中で71Bの発言を聞いてここで74CDはBの発言していることに理解できたことが74CDの発言でわかる。

60B: 何か、普通やったら? / / 新鮮な魚とか言わんやん。

61A: / / うん。

62A: うんおおう。

63B: 新鮮な秋ってあんまり言わんがいんねえ。

64A: うん、言わん。

65?: うん。

66B: やろ? そやから、それは、たべものとみとる

67A: ああ。なるほど。

68?: たべもの。

69B: 秋を。

70A: なるほど。

71B: みとるっというのを食べ物っていうこの表現っていうか。

/ / なんていうかそんな感じで? で、自然を見て満足しとるのをおいしいっていうを。

72A: / / うん。

73A: ああ、あ:。

74CD: あ:。

2010/7/28

以上のことから

- このグループは話し合いの様子を見る限りでは決して活発な議論はされていなかったが、このように三層分析することにより、このグループの話し合い学習が成立することが見受けられる。

発話プロトコルを分析を体験してみよう

次の発話プロトコルを三つの層で分析してみましょう

①形式的な特徴 ②発話機能 ③意味的な内容

～国語科 中学1年 男子3名女子1名グループ～

(音声)

32N: え？視覚で見て食べたってこと？

33S: へ？

34N: そのままつんで料理したんか//そういう意味にならんけ＝

35S: //いや、なんか、なんか。

36M1: //ん: でも。

37N: ＝絵的においしいんか、カメラみたいに、それとも味でおいしいんか？

38S: なんか、えっと。

39S: あ:: あれ、え、じゃあ、え、どうなるんやろ、これは人じゃないかもしれんという。

40N: え？

41M1: なに？庭目線？

42N: え？

43S: 庭の目線でいうか、なんやろ、え(3)なんやろ、えっと//なんか、えっと

44N: //たしかにこの2つをくうことはないとして、視覚的になんかおかずになったとかそんなかんじをいう人もいる、そんなかんじ？なのか//朝っぱらからこんなもんOKって。

45S: //あたしは、朝飯だったから食べたんかと思って(笑)

46N: 書こうと思えば、2つの情景書けるよね。準備しながらみとるんか、食べながら見とるんかみたいな//2つみれるよね、これがまた。

①形式的な特徴の分析

34Nから37N、および43Sから45Sは同時発話が連続し、34N「...料理したんか...ならんけ」や39S「...どうなるんやろ...かもしれん...」のようにくだけた口調で発話が進行している。また、32N、33S、40Nから42Nは昇イントネーション「？」や39S「あ::あれ」というような発話が現れ、グループ内で自在に発話をしている。

このグループの話し合いでは、さまざまな形式上の特徴に自在で闊達なやりとりの特性が表れており、形式的には活発でかつ自在な話し合いになっているものと考えられる。

32N: え？視覚で見て食べたってこと？

33S: へ？

34N: そのままつんで料理したんか//そういう意味にならんけ＝

35S: //いや、なんか、なんか。

36M1: //ん: でも。

37N: ＝絵的においしいんか、カメラみたいに、それとも味でおいしいんか？

38S: なんか、えっと。

39S: あ::あれ、え、じゃあ、え、どうなるんやろ、これは人じゃないかもしれんという。

40N: え？

41M1: なに？庭目線？

42N: え？

43S: 庭の目線でいうか、なんやろ、え(3)なんやろ、えっと//なんか、えっと

44N: //たしかにこの2つをくうことはないとして、視覚的になんかおかずになったとかそんなかんじをいう人もいる、そんなかんじ？なのか//朝っぱらからこんなもんOKって。

45S: //あたしは、朝飯だったから食べたんかと思って(笑)

46N: 書こうと思えば、2つの情景書けるよね。準備しながらみとるんか、食べながら見とるんかみたいな//2つみれるよね、これがまた。

②発話機能の分析

この場面はSが「おいしい」という回答し、その理由を説明した後の場面である。32Nの「視覚で見て食べたってこと？」という問いかけは、Sの二つの新鮮な秋を食べたというからという理由に疑問を持ったからである。以後34N、37N、41M、44N、46NはSの「二つの秋を食べた。」という発話を補う機能を持つとともに、39Sの「どうなるんやろ」という発言から見て取れるように、Sのメタ認知を促進する機能を担っている。

32N: え？視覚で見て食べたってこと？

33S: へ？

34N: そのままつんで料理したんか//そういう意味にならんけ＝

35S: //いや、なんか、なんか。

36M1: //ん: でも。

37N: ＝絵的においしいんか、カメラみたいに、それとも味でおいしいんか？

38S: なんか、えっと。

39S: あ: あれ、え、じゃあ、え、どうなるんやろ、これは人じゃないかもしれんという。

40N: え？

41M1: なに？庭目線？

42N: え？

43S: 庭の目線でいうか、なんやろ、え(3)なんやろ、えっと//なんか、えっと

44N: //たしかにこの2つをくうことはないとして、視覚的になんかおかずになったとかそんなかんじをいう人もいる、そんなかんじ？なのか//朝っぱらからこんなもんOKって。

45S: //あたしは、朝飯だったから食べたんかと思って(笑)

46N: 書こうと思えば、2つの情景書けるよね。準備しながらみとるんか、食べながら見とるんかみたいな//2つみれるよね、これがまた。

③内容な意味的分析

Sのワークシートには言葉・「おいしい」、説明・「新鮮な秋を食べて、とてもおいしかったと思ったから。」と書かれている。Sはメンバーに説明するときに、26S「で、最初の『さあ、朝飯だ』で...新鮮な秋を...この2つを食べておいしいと思ったと思いました。」30S「...一番最初の『朝飯だ』で、...この2つを食べて...この新鮮な秋の、この2つを食べておいしいなと思った、と思います。」とワークシートに書いていない言葉を補って説明している。これに対して、32N、34N、37Nで、NがSの説明不十分なところを補わせる発話をしている。ここでは、S自身がワークシートに書き込んだ内容を補足しながら発話し、説明不足であったSの発言をNが確認し促しながら話し合いが行われ、互いに解釈をある程度理解しつつ、説明内容を深めていくという内容を持った話し合いが見て取れる。

このグループの話し合いにおいては、意味的な内容についても有効に展開しているものと見ることができる。

32N: え？視覚で見て食べたってこと？

33S: へ？

34N: そのままつんで料理したんか//そういう意味にならんけ＝

35S: //いや、なんか、なんか。

36M1: //ん: でも。

37N: ＝絵的においしいんか、カメラみたいに、それとも味でおいしいんか？

38S: なんか、えっと。

39S: あ: あれ、え、じゃあ、え、どうなるんやろ、これは人じゃないかもしれんという。

40N: え？

41M1: なに？庭目線？

42N: え？

43S: 庭の目線でいうか、なんやろ、え(3)なんやろ、えっと//なんか、えっと

44N: //たしかにこの2つをくうことはないとして、視覚的になんかおかずになったとかそんなかんじをいう人もいる、そんなかんじ？なのか//朝っぱらからこんなもんOKって。

45S: //あたしは、朝飯だったから食べたんかと思って(笑)

46N: 書こうと思えば、2つの情景書けるよね。準備しながらみとるんか、食べながら見とるんかみたいな//2つみれるよね、これがまた。

三つの層の分析から ～集団における話し合いの過程を評価する～

形式的な特徴

- ・話し合い全体がどのように進んでいるのか、話し合いが活発に進んでいるかどうか分かる。一人一人の子どもが話しているかどうか分かる。
- ・学習目標の共有の変化がわかり、グループ編成に生かせる。

発話機能

- ・目的に沿った話し合いが行われているかどうか分かる。
- ・話し合いを自覚的に推進しようとしているかどうか分かる。

意味的な内容

- ・互いに互いの考えが理解できているかどうか分かる。
- ・学習課題の内容、提示、発問などをふり返ることを通して、授業改善と指導方法の工夫につながる。

実践に生かすこと

- うろ覚えの記憶よりも確かな評価
- 主観的から客観的な評価
- 授業者の授業改善や指導の工夫